

くらしとつながる最上川

わたしたちのくらしに「水」はなくてはならないものです。山形県では、その水のほとんどを最上川やその支流から得ているのです。では、川の水はどのように使われているのでしょうか。

<p>生活用水</p> <p>飲み水や洗たくする水など、生活するために使う水を「生活用水」といいます。</p>	<p>農業用水</p> <p>水田や畑の作物を育てるために、川から取り入れるたくさんの水のことを「農業用水」といいます。</p>	<p>工業用水</p> <p>工場などで使う水を「工業用水」といいます。生活用水と同じように水をきれいにしてから使っています。</p>	<p>水力発電</p> <p>ダムから水が流れ落ちるときに力を電気を起こすことを「水力発電」といいます。</p>
--	---	--	---

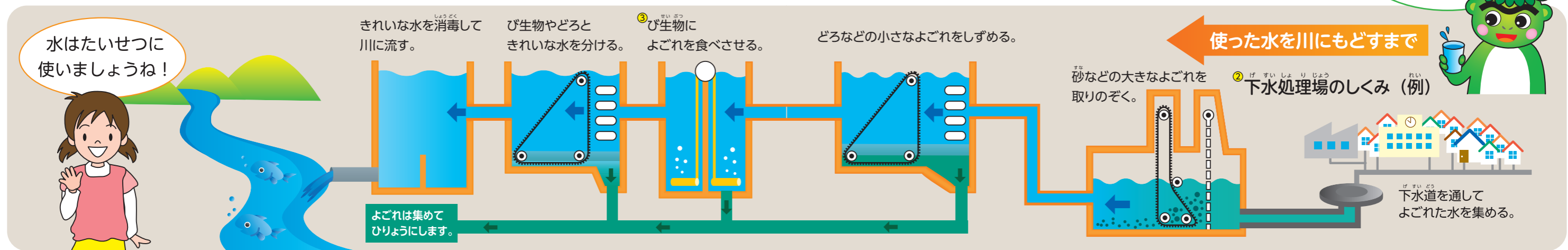
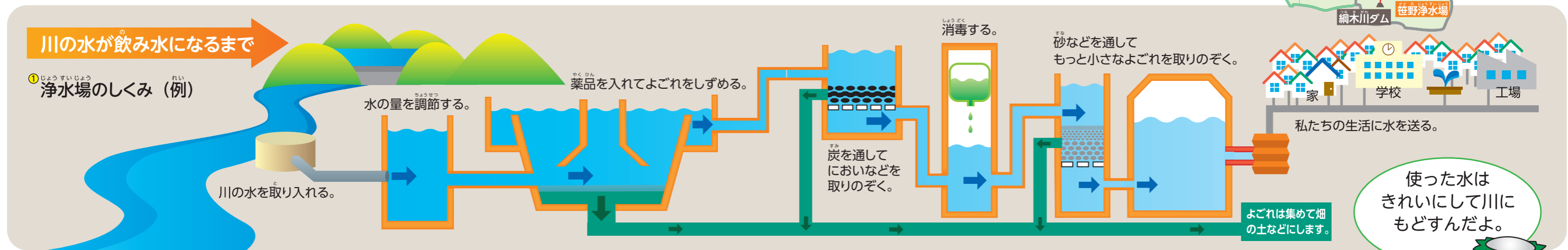
山形県が行っている水道用水供給事業

川の水はそのまま飲むことはできません。川の水を浄水場できれいにしてから各家庭やお店などに送っています。それがわたしたちが飲んでいる水道水です。

(右の図の他にも各市町村で浄水場をつくらせて水道水を供給しています。)



ぼくたちの水道水はどこから来てるのかなあ？ 調べてみよう！



ことばの意味

① 浄水場：川などから取り入れた水を、人間が飲むことができる水質にする施設。
昔は井戸の水を使っていたので、夏になると水が足りなくなったり、水の中の菌などで病気になったりする人もいた。そのため、いつでも安全に水を飲めるように、浄水場がつけられた。

② 下水処理場：使われてよごれた水を集め、きれいにしてから川へもどす施設。
③ び生物：人間の目では見えないくらい小さな生き物。